

## 第41回地盤工学研究発表会を終えて

河 邑 眞 (かわむら まこと)

(社)地盤工学会 調査・研究部長, 豊橋技術科学大学教授 工学部

肌をさす南国の強い日差しのもと, 7月12日から14日にかけて鹿児島市において第41回地盤工学研究発表会が開催されました。旧鹿児島県庁跡に建てられた, かごしま県民交流センターに12会場を併設し, 3日間にわたって熱心な発表と討議がかわされました。鹿児島大会の参加者は1974名で, 例年同様の多くの参加をいただきましたが, この参加者数は地盤工学会における研究活動の活発さを表す指標であり, 約2000名という数を継続させている会員諸兄のご努力に敬意を表します。

鹿児島大会では, 研究発表に加えて, 特別講演会, 交流会, 技術展示, 市民フォーラム, 見学会が実施され, 充実した内容で多数の参加者を得, 成功裏に各事業が実施されました。これは大会実行委員会の皆様はじめ関係各位のご尽力の賜物と深謝いたします。

沈壽官氏(第十五代)の特別講演では, 慶長年間に朝鮮半島から連行された陶工達がつくりだした西日本における焼物の文化などについて紹介いただきました。イタリア, 韓国で経験された陶工としての修行における真摯な態度, 日本の地に住み朝鮮半島の文化をも継承するという複雑な立場にあり, 両国に愛着の念をもつという真の国際人のあり様など, お話の内容に深い感銘を覚えました。素晴らしい講演であったとの言葉を多く耳にいたしました。識者の講演を聞くのも研究発表会の一つの楽しみと思いました。

鹿児島大会では例年とほぼ同様の1239件の発表がありました。発表の内容, ならびに発表者の特性について統計データに基づき考察を加えたものを以下に紹介いたします。

研究発表会では, 1セッション当たり90分を単位として, 1日に一つの会場で4ないし5のセッションが行われましたが, プログラムの大項目ごとに関連する一般セッション数を調べると次のような結果となりました。分類大項目 1.一般から順に, 2.調査・分類, 3.地盤材料, 4.地盤挙動, 5.地盤中の物質移動に関するセッションを, 土もしくは地盤の挙動に関する基礎的な研究に関するものとし, 大分類項目 6.地盤と構造物から順に 7.地盤防災, 8.地盤環境に関するセッションを応用的な研究に関するものとし分けて考えると, 前者の総セッション数は64であるのに対して, 後者の総数は66であり, ほぼ同数となりました。基礎, 応用の各領域についてバランスよく研究活動が展開されていると思われます。このこと

については, 昨年の函館大会でも同様の傾向が見られました。

つぎに, 発表者の所属について調べたところ, 大学をはじめとする学校関係が約5割, 建設業, コンサルタント, 官庁関係の総数が約5割となりました。どのような割合が適切かの判断は難しいですが, 各機関の役割, 総数から妥当な割合ではないかと考えます。基礎的な研究と応用的な研究に関するセッションの比率がほぼ1対1という考察の結果も発表者の所属に依存しているとも考えられます。

また, 発表者の特徴についてみますと, 学生による発表は395件で, 全体の発表件数の32%となっています。地盤工学会の若手会員の減少が懸念されていますが, 発表をした学生が社会人となってからも研究的な視点をもって実務にあたり, また研究発表できるというような環境づくり, 仕事上の配慮が必要不可欠と思われます。鹿児島大会での女性の発表者は56名(全体の約5%)で, 多くの方に発表をいただいておりますが, 女性による発表件数の増大が期待されており, 女性の技術者が研究発表しやすい環境づくりも今後重要と思われます。

他学会との連携, 新しい研究領域の創設を目指して, 昨年の函館大会から始まった「技術者交流特別セッション」を鹿児島大会においても引き続き実施しました。鹿児島大会では, 「日本火山学会」, 「日本地下水学会」, 「日本第四紀学会」の3学会に参加いただき, 各学会における最新の研究活動について紹介いただくとともに, 新たな研究領域などについて意見交換が行われました。特別セッションはほぼ満席で有意義な意見交換が行われましたが, このセッションの企画, 運営は大変難しく, 担当された方々のご努力に感謝申し上げます。来年度の研究発表会では, 学会長の龍岡先生も技術者特別交流セッションの企画, 運営に携われる予定です。ますますの発展が期待されます。

以上, 調査・研究部部長という立場から, 第41回地盤工学研究発表会の全体についてみて歩き, 感じたこと, 考えたことを記述いたしました。会員諸兄のご努力, ご支援により, 研究発表会がより実りあるものとなることを期待いたしております。次年度の研究発表会は名古屋で開催されます。より多くの会員の皆様のご協力とご参加をお願い申し上げます。

(原稿受理 2006.8.29)